

# 読書ボランティア研修会【人材育成基礎研修(研修A)】

- 目的：** 地域で子ども読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館の支援もできる人材を育成する。
- 日時：** 平成27年6月10日(水) 10:15~16:00
- 場所：** 伊達ふれあいセンター
- 参加者：** 69名

## 講演 「学校図書館を核にした読書環境の充実に向けて」

福島大学名誉教授 高野 保夫 氏

### 1 福島県の子ども読書活動の取組み

- ・5年後、学校司書等を配置している学校の割合100%を目指している。現在は、小学校で24.7%、中学校で24.2%、高等学校で60.2%となっているが、兼務も多い。
- ・学校図書館にもボランティアに関わっていくことが期待される。しかし、震災後は、活動する人が減少しており、高齢化している。ぜひ、今後も多くの方に研修会に参加してほしい。



### 2 福島県内各地の取組み事例について

- ・白河第三小学校では、学校司書が配置され、子どもたちが借りる図書の数が増加した。本棚の本の並び方、本の紹介コーナーや掲示物等、本を探しやすくなり、掲示物も子どもたちの興味を誘うようなものになった。白河市立図書館では、学校図書館における学校司書と司書教諭の職務内容を明らかにしているので参考にしたい。

### 3 伊達市の学校図書館運営と学校司書等の取組み事例について

- ・保原小学校では、司書が配置されてから、貸出者数が5566人増加し、貸出冊数も6016冊増えた。学校司書が図書館の環境づくり、児童の読書活動や教師の授業支援などに積極的に関わることで学校図書館がより活性化されたとの紹介がなされた。

### 4 読書環境をめぐる福島県内の新たな動きについて

- ・今年度矢吹町、いわき市では、学校司書の資格・養成のあり方や資質能力の向上に関する調査研究のモデル事業に取り組む計画が進行中である。
- ・学校内部の体制づくり、学校とボランティア等をつなぐ管理職や図書館主任の役割が重要となってくる。

#### 【参加者からの声】

- ・学校図書館としての在り方、学校司書について大変勉強になりました。ぜひ、学校司書として働きたいと思いました。
- ・学校司書が何校かかけもちでしかできないのが残念です。教員が担任をしながら司書を兼務するのはとても困難です。



## 講話「はじめての読み聞かせ～ポイントとコツ～」

J P I C 読書アドバイザー 児玉 ひろ美 氏

### 1 こどもと本の周辺

- ・各種調査から、就学前に読み聞かせをすると小学生で本を読む率が高くなる、読む冊数が多い方が書くこと・調べることが得意である、というデータがある。
- ・1年間で3500冊もの子どもの本が出版され、うち1200冊が絵本である。子どもたちの気持ちに添って作られた本であり、ネットによる評価は鵜呑みにできない。手にとって自分の目で確かめることが大切である。



### 2 心身の成長に寄り添う本

- ・4歳頃までは、読み聞かせを通して親と一緒に過ごす楽しさが大切である。目で情報を得ることが楽しくなる時期である。膝の上ののせて読み聞かせるよりも、子どもは読んでいる大人の表情を見るので、子どもと大人と絵本の形態を三角形の形で読み聞かせるとよい。図書館では、子どもの好きなページは傷んでいることが多い。好んで開いている証拠だと思う。
- ・4～6歳は「なんで、どうして？」の時期。昔ばなし絵本と併せ、科学の絵本もよい。
- ・6歳を過ぎると、自分の生活にすり合わせて学ぶことができる。感想を求めたり、しつけを行ったりしない。子どもが感じるままでよい。

### 3 集団への読み聞かせの絵本

- ・ロングセラー本を薦める。絵と文のバランスのよいものを選ぶ。絵が鮮明である本がよい。
- ・季節、行事、環境、子どもの好きなものとの関連のあるものを選ぶ。
- ・自分がおもしろいと思う本を選ぶ。好きな本でなければ伝わらない。しかし声に出すと読みづらい本もあるので注意する。



### 4 読むために

- ・事前準備…しっかりページを開く（光るものは特に）
- ・持ち方／見せ方…表紙から裏表紙まで。作家名、見返しも丁寧にめくる。
- ・読み方／めくり方…自分の言葉は挟み込まない。手が邪魔にならないように。
- ・服装…本より目立たないように。

#### 【参加者からの声】

- ・読み聞かせのポイントがわかり、実際の選書に役立てられると思いました。
- ・児玉先生のお話をうかがって、あらためて初心の気持ちに戻り、いい勉強になりました。
- ・本を読むときの基本的な姿勢を教えていただきました。次回の読み聞かせのときに取り入れ、忘れないようにしたいと思います。





## 事例発表 「子どもたちに良い本を読んであげていますか ～図書館とボランティアとの協働による子どもの読書支援活動～」

本宮市立しらさわ夢図書館 柳沼 志津子 氏

### 1 本宮市の取組

- ・学校支援としてドリーム文庫の配本、出張おはなし会訪問、ブックトークの実施、アニメーションの実施等を行っている。

### 2 図書館活動と司書そしてボランティア

- ・一生涯の中で、子どもの時期は短い。短く大切な子どもの読書の時間なので、子どもの本は量よりも質が大切である。
- ・子どもの理解と本の理解が大切であるので、ボランティアとその趣旨・目的を共有して、読書活動にあたっている。
- ・子どもの教育を目的として活動しているので、ボランティアはその責任を自覚するとともに、子どもの人権、プライバシーに配慮することが大切である。



## 事例発表 「ボランティアとしての活動について」

イクタン号GO 山崎 由美子 氏

### 1 ボランティアとしての活動

- ・図書館司書とのつながりがとても強い。ボランティアとして、出張おはなし会の実施、本の修繕修理、朝読・昼読の選書を行っている。
- ・自信を持って子ども達の前に立てるように、おはなし会開催には、打ち合わせ、リハーサル、反省会を毎回行っている。



### 【参加者からの声】

- ・本宮市立しらさわ夢図書館とボランティアメンバーの方との密接な関係があり、より良い活動につながっていることに非常に感心しました。
- ・柳沼さんのお話とても参考になりました。感動しました。子どもにこびたような内容、絵、なぜこのお話を絵本にするのか疑問になる絵本が多い今、短い子ども時代だからこそ、絵本以外の様々な良書を読んでほしい、手渡したいと思います。選書は一番難しいです。
- ・本宮市での公立図書館司書の活動は、ボランティアにとってとても活動しやすい環境をつくっていただきうらやましい限りです。山崎さんのボランティアの立場からの話もとてもよかったです。多分にとってもステキな絵本の読み聞かせをしているのではと話し方で感じました。とてもよかったです。

### 御意見・要望・感想（参加者アンケートから）



- ・今日は大変参考になりました。でも研修Bが県北で開催されずに残念に思いました。
- ・より具体的な魅力のある図書館づくりの紹介を聞きたかった。
- ・あらためて読み聞かせの大事さを聞いて、また頑張ろうという気持ちになりました。ありがとうございました。
- ・何気ないボランティアの中に、気を付けなければならないことがいろいろあると、気付かされた点があります。本を選ぶときにもよく考えてみなければと思いました。とても良かったです。

